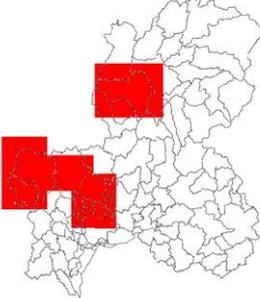


トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>teucrifolia</i> (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. <i>caespitosa</i> Koidz.	絶滅危惧 I 類
		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	茎は直立して高さ20-40cmになる多年草。葉は披針形で縁に重鋸歯があり、下部では対生、上部では互生。花期は8-9月。花序がつまって、花が枝の先端に集まって巴形に咲く。花冠は淡紅色で長さ約2cm。	
生態的特徴	高山の草地に生える。	
分布状況	日本固有の種。本州中北部に分布する。県内では県北の西部及び県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北及び県南の若干の地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良